

第5次岸和田市総合計画

基本構想

<2023～2034年>

(素案)

(令和3年10月時点)

【目次】

1	基本理念	5
2	計画の概要	6
1	計画策定の趣旨と考え方.....	6
(1)	計画の根拠.....	6
(2)	計画の役割.....	6
①	まちづくりの基本的な方向性の明示.....	6
②	岸和田市自治基本条例の具体化.....	6
(3)	策定にあたっての考え方.....	7
①	市民みんなの総合計画【市民自治都市の実現】.....	7
②	行政経営の強化.....	7
③	岸和田市総合戦略との一体化とSDGsとの連動.....	8
④	技術革新がもたらす社会と技術の活用.....	8
2	計画の構成.....	9
(1)	基本構想と基本計画.....	9
(2)	計画の期間.....	10
3	計画の進行管理.....	11
(1)	P D C Aサイクルによる進行管理.....	11
(2)	進行管理の仕組み.....	11
3	基本構想	12
1	岸和田市の特性.....	12
(1)	位置と地勢.....	12
(2)	岸和田市の成り立ちと特徴.....	13
(3)	地形の構造からみた特性.....	14
①	地形の特徴.....	14
②	生活圏について.....	15
(4)	人口の動向からみた特性.....	16
2	社会状況の変化.....	18
(1)	人口減少や超高齢社会への対応.....	18
(2)	持続可能性や多様性（SDGs）への対応.....	19
(3)	地球環境問題への対応.....	20

(4) 危機への備え（安全・安心の確保）	21
(5) 革新的技術への対応と活用	22
(6) 財政状況への新たな対応	23
3 将来像（めざすまちの姿）	24
4 基本目標と“3つの視点”	26
5 将来人口の方向性と都市構造	30
(1) 将来人口の方向性	30
(2) めざす都市構造	31
① 土地利用の基本方針	32
② 区域別の土地利用方針	32
③ 軸の設定	33
④ 拠点の設定	34
6 施策体系図	36

4 資料編 38

1 策定のプロセス	38
2 策定スケジュール	42

1 基本理念

「市民自治都市」の実現

～常に安心していつまでも住み続けることができる、

個性豊かな持続性のある地域社会～

本市では、市民参画や協働の施策を積極的に進めてきました。それらを体系化し、定義づけを行ったのが、2005（平成 17）年 8 月 1 日に施行された「岸和田市自治基本条例」です。

この「岸和田市自治基本条例」の前文にある、「市民が自治の主体、市政の主権者であることを認識し、**自らの地域は自らの手で築いていこうとする意思を明確にし、自ら考え、行動することで、常に安心していつまでも住み続けることができる、個性豊かな持続性のある地域社会、すなわち「市民自治都市」の実現**」が、本市のまちづくりの根底に流れ続けている基本的な考え方です。

2 計画の概要

1 計画策定の趣旨と考え方

(1) 計画の根拠

岸和田市自治基本条例

岸和田市自治基本条例第24条第1項には、「市は、この条例の理念にのっとり、市政の運営を図るための基本的な構想及びこれを実現するための計画（以下「総合計画」という。）を定めなければならない。」と規定されており、この「基本的な構想及びこれを実現するための計画」が本計画にあたります。

(2) 計画の役割

① まちづくりの基本的な方向性の明示

この計画は、市の最上位の計画であって、市民・事業者・行政などを含め、すべてのまちづくり活動の根拠となるものです。

また、本市のまちづくりの基本的な方向性を明らかにする役割を担います。

② 岸和田市自治基本条例の具体化

この計画は、岸和田市自治基本条例に定められた市民と事業者の権利や責務、市長と議会の機能や責務、情報共有、市民参加、協働、市政運営の原則などといった市民自治都市を実現するためのルールを、実際のまちづくり活動の中で具体化し、実践する役割を担います。

(3) 策定にあたっての考え方

① 市民みんなの総合計画【市民自治都市の実現】

本市には、市民、事業者、地区市民協議会、自治会、市民団体、行政などの様々な主体が存在し、活動しています。真の市民自治都市を実現するためには、従来のような行政主導の地域社会づくりではなく、地域のことは地域で自主的に決め、地域の力で課題解決を行い、地域全体で地域の価値を高めていくことが重要です。

「地域経営」とは、このような多種多様な主体によって構成される本市の地域全体について、それらの持つ経営資源を最大限に活かして、地域全体の価値を高め、各主体の満足度を高める活動・営みのことをいいます。「地域経営」を推進していくためには、本市全体として、地域全体の将来像や目標を明らかにし、それを地域全体で共有することが必要です。

さらに、今後進んでいく少子高齢社会では、市民自らが将来の地域の担い手として、これまで以上に重要な役割を担うことが想定されるため、公共私との協力関係を構築することが必要です。

そこで、本計画では、行政のみならず、本市を構成する多種多様な主体によるまちづくり活動の根拠となり、地域づくりの活動を行うときは、その活動が総合計画のどの目標を達成するためのものなのかを明らかにできる、公共を支える者すべてにとっての“よりどころ”となる計画をめざします。

② 行政経営の強化

行政は、地域社会を構成する重要な一つの主体です。「地域経営」の中で、行政が自らのもつ経営資源を最大限に活かして、市民や地域に成果をもたらすために行う活動・営みのことを「行政経営」といいます。

また、「地域経営」を推進していくためには、将来都市像の実現に向けて行政がどのような考え方をもって限られた資源を投入し、施策を展開し、戦略的な経営を行っていくのかを明らかにすることが重要です。

本計画では、市長が掲げたローカル・マニフェストとの連動を図りながら、行政経営の方針について明らかにするとともに、計画の運用にあたってはP D C Aサイクルの中で施策や事業を評価して改善を進めていくことで、より実効性の高い計画をめざします。

③ 岸和田市総合戦略との一体化とSDGsとの連動

国は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、まち・ひと・しごと創生（地方創生）に関する施策を総合的かつ計画的に実施しています。

本市においても、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を生み出すという地方創生の推進を図るため、国及び大阪府の総合戦略を勘案し、岸和田市総合戦略を策定してきましたが、計画書としては総合計画とは別に策定してきました。

しかし、総合戦略も総合計画も“まちの活性化”というめざすところは同じであるため、本計画から別の計画書ではなく総合計画に総合戦略を含んだ形とするとともに、具体的な施策の推進についても、指標の設定やPDCAサイクルなど同様の手法を活用して実施していくものとしします。

なお、国や大阪府の総合戦略における施策とのつながりが分かるように、基本的には、基本計画の中で本市の総合戦略に該当する部分を明らかにします。

SDGsについては、国を超えた世界共通の目標であることから、本市においても意識しながら施策を進めることとし、基本計画において個別の施策とSDGsとの関連性が分かるように示します。また、SDGsローカル指標を活用しながら、SDGsの達成を意識できる計画としします。

④ 技術革新がもたらす社会と技術の活用

インターネット上でデジタル化された財産やサービスなどの流通が進んでおり、こうしたデジタル経済をベースに新しい技術革新が近年急速に進展し、経済社会の大きな変化を引き起こしています。これら技術は、例えばAI（人工知能）、ビッグデータ、モノのインターネット化（IoT）、ロボットなどであり、第4次産業革命とも呼ばれています。

少子高齢化・人口減少が進行する中、このような技術革新に適切に対応し活用していくことで、人手不足を克服した上でのサービス・生産性の向上が期待できる社会（Society5.0）が実現します。

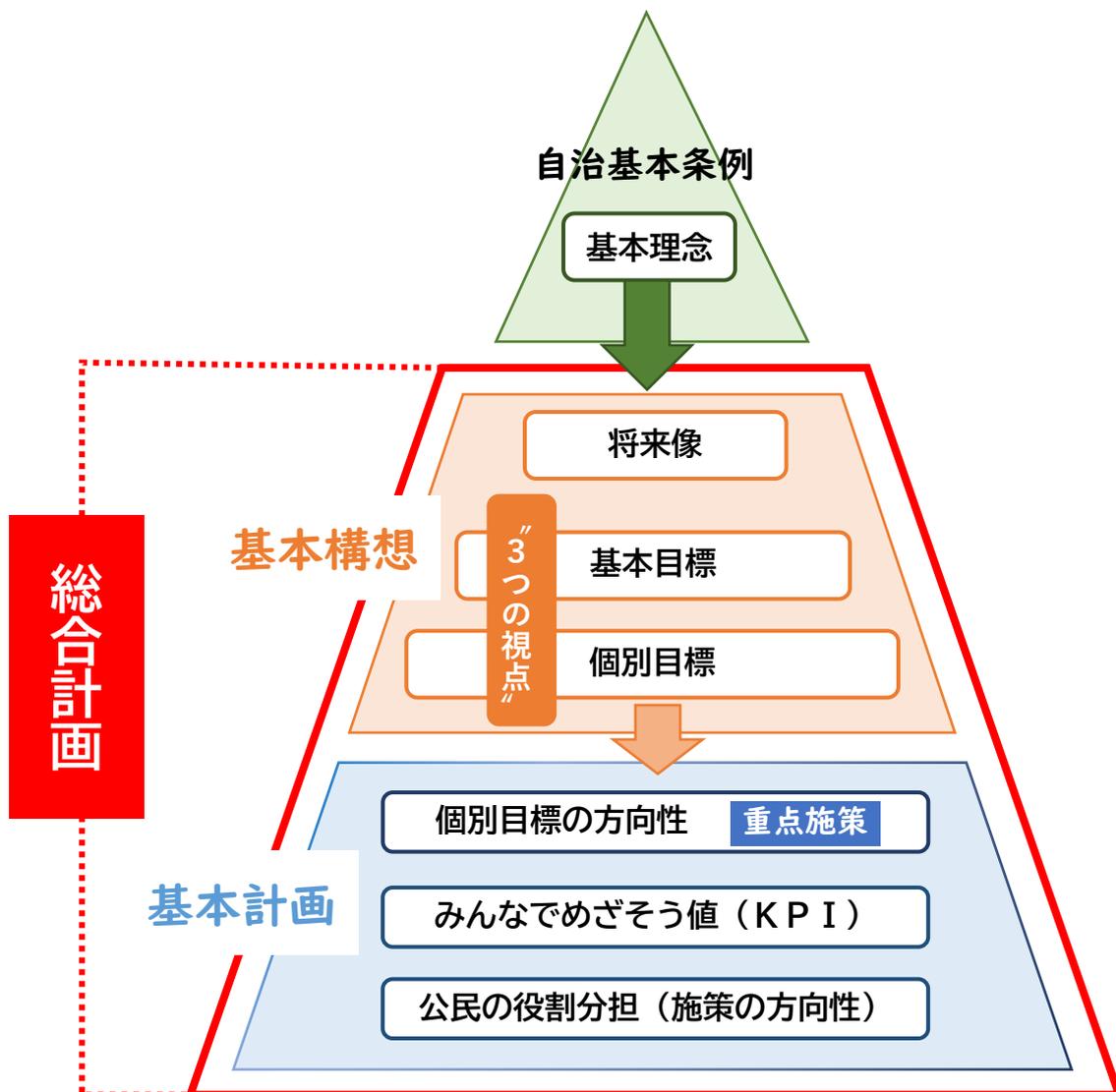
本市においても、行政内部におけるAIやロボティクス（RPA）などを活用した業務効率化や、新たな技術を活用した行政運営のあり方の見直しを進めるとともに、行政だけでなく地域全体で新たな技術の活用を推進し、Society5.0が実現できる計画をめざします。

2 計画の構成

(1) 基本構想と基本計画

総合計画は、「基本構想」と「基本計画」で組み立てています。

なお、2021（令和3）年に改訂し、2015（平成27）年度から2022（令和4）年度までを計画期間として、まち・ひと・しごと創生の取組について定めた「岸和田市総合戦略」については、総合計画に組み込み、一体的に推進していきます。



(2) 計画の期間

まちは、長い期間をかけて変化するものであり、基本構想に示す将来像は、長期的な目標となります。一方、中期的な戦略シナリオとなる基本計画については、昨今のような激しい社会経済状況の変化に対応し、市長が掲げたマニフェストとも迅速に連動しながら的確に推進することが重要です。

そこで、市長任期のサイクルを考慮し、基本構想の計画期間を12年間、基本計画の計画期間を4年間とし、それぞれ時代の変化に応じた見直しを行うこととします。

また、基本構想と基本計画を踏まえた行政が実施する事務事業については、毎年度明らかにした上で推進します。

基本構想（12年間）

基本構想は、まちづくりの指針（大きな方向性）を明らかにするものです。

- 将来像** みんなでめざす12年後の岸和田のまちの姿を示します。
- 基本目標** 将来像を実現するための6つの基本目標を示します。
- 個別目標** 基本目標をさらに細分化した具体的な個別目標を示します。

岸和田を強くする“3つの視点”

すべての分野や取組において共通して意識・活用すべき内容を「岸和田を強くする“3つの視点”」として設定します。

基本計画（4年間）

基本計画は、将来像や基本目標、個別目標を実現するための中期的な戦略シナリオです。

- みんなでめざそう値（KPI）** 市民みんなの共通目標として個別目標を数値化したものです。また、SDGsローカル指標も活用しながら設定します。
- 公民の役割分担（個別目標の方向性）** みんなでめざそう値と、その成果を達成するための「公民の役割分担の方向性」を示します。

重点施策

個別目標のうち、計画期間内に特に重点的にめざすものに関連する取組を「重点施策」として示し、市長のマニフェストとも連動した「選択と集中」を明らかにします。

総合戦略

総合計画の枠組みの中で、引き続き地方創生の推進を図るため、基本計画において本市の総合戦略に該当する部分を明らかにします。

3 計画の進行管理

(1) P D C Aサイクルによる進行管理

基本構想で示す将来像や基本目標の実現に向け、限られた資源を有効活用できるよう、計画の策定（P l a n）、実施（D o）、成果測定・評価（C h e c k）、改善（A c t i o n）のP D C Aサイクルを進行管理の手法として活用します。

一方で、社会状況の変化が激しい中、その時々に応じた新しい取組を進めていくことも必要です。そこで、P D C Aサイクルを補完する考え方として、迅速性・柔軟性を持ち合わせたフレームワークを活用していくことが求められています。

(2) 進行管理の仕組み

地域社会を構成するのは、行政だけではなく、市民や事業者・団体など多種多様な主体です。そのため、総合計画の進行管理にあたっては、①市民や事業者・団体など民間も含めた岸和田市全体としてのまちづくり活動の結果と、②行政運営の結果という2つの対象について、計画期間内のそれぞれの取組を振り返ることができる仕組みを導入します。

③ 基本構想

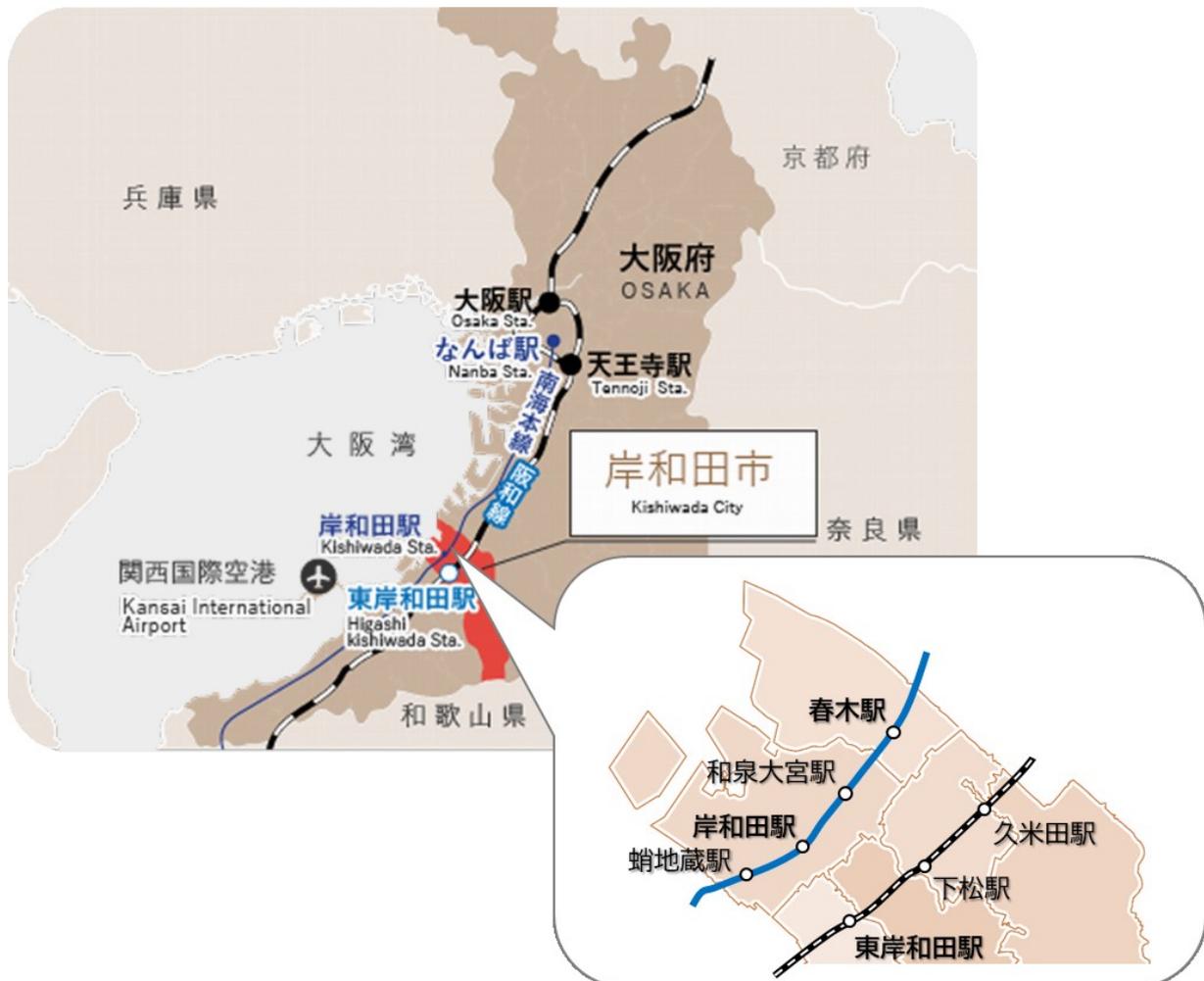
1 岸和田市の特性

(1) 位置と地勢

本市は、大阪市と和歌山市のほぼ中間に位置し、大阪都心から約20km、関西国際空港から約10kmの距離にあります。そのため、大阪市内まで車で約30分、また関西国際空港まで車で約15分とアクセス性に恵まれています。

また、市内にはJRと南海電鉄の鉄道駅があり、大阪市内や近隣市町、大阪府外への公共交通機関による移動の利便性も高い状況です。

<本市の位置と交通アクセス>



(2) 岸和田市の成り立ちと特徴

江戸時代に岡部氏5万3千石の城下町として栄えた岸和田は、1912（明治45）年に岸和田城周辺の4町村が合併し、新しい「岸和田町」が誕生しました。

その後、紡績業の発展をきっかけとして製鋼、煉瓦製造などの産業の発展とともに市街化が進み、1922（大正11）年に大阪府内で3番目に市制を施行し、泉南地域の経済・文化・行政の中心的役割を果たすようになりました。当時は、人口約3万人、市域面積約4km²の町でしたが、昭和に入ると市町村の再編が行われ、近隣の町村との合併を数回経験し、1950（昭和25）年には人口約10万人、面積約68km²のまちへと成長をとげ、現在の岸和田の原型が形作られました。

1955（昭和30）年からの高度成長期には、地方圏から大阪都市圏への人口集中と、それに続く1960年代前半からのドーナツ化現象などにより、大阪府内の衛星都市では人口が急激に増加しました。大阪市から20～30km圏に位置する本市も、1955（昭和30）年～1970（昭和45）年の15年間に、人口増加率が10%を超えるという人口急増を経験しました。

1990（平成2）年には阪和自動車道・岸和田和泉IC～阪南IC間が開通、1993（平成5）年には堺IC～岸和田和泉IC開通と、大阪市や和歌山県とのアクセスを支える基盤整備が行われてきたほか、1994（平成6）年には近隣の泉佐野市で関西国際空港が開港と、国内外へのアクセス性も向上しています。これらの利便性の高い立地を背景に、2005（平成17）年までは人口増を続けていましたが、2010（平成22）年からは人口減に転じました。

近年は、昼夜間人口比率が90%前後で推移していることや、市内在住の就業者のおよそ半数近くが市外へ通勤していることなどから、本市が大阪都市圏の住宅都市としての特性をもつとともに、製造業や工業、農林水産業を含めた多様な産業都市でもあります。

なお、市内在住の就業者のうち、市内で働いている人の割合は、2015（平成27）年で45.5%と府内平均と比較しても依然として高い水準にあり、本市は職住近接型という特徴がありますが、その割合は減少傾向にあります。

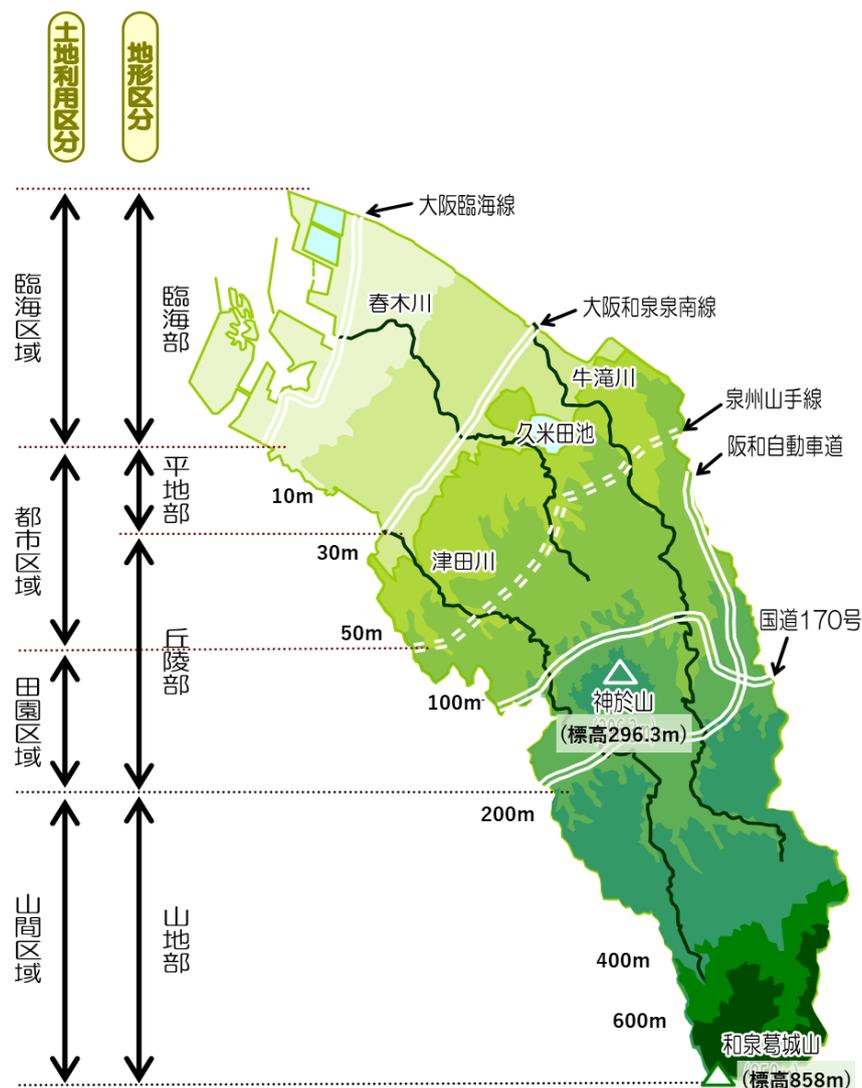
(3) 地形の構造からみた特性

① 地形の特徴

本市は、市域面積が72.72 km²、広ぼうが東西約10.4 km、南北約17.0 kmと細長い地形となっています。

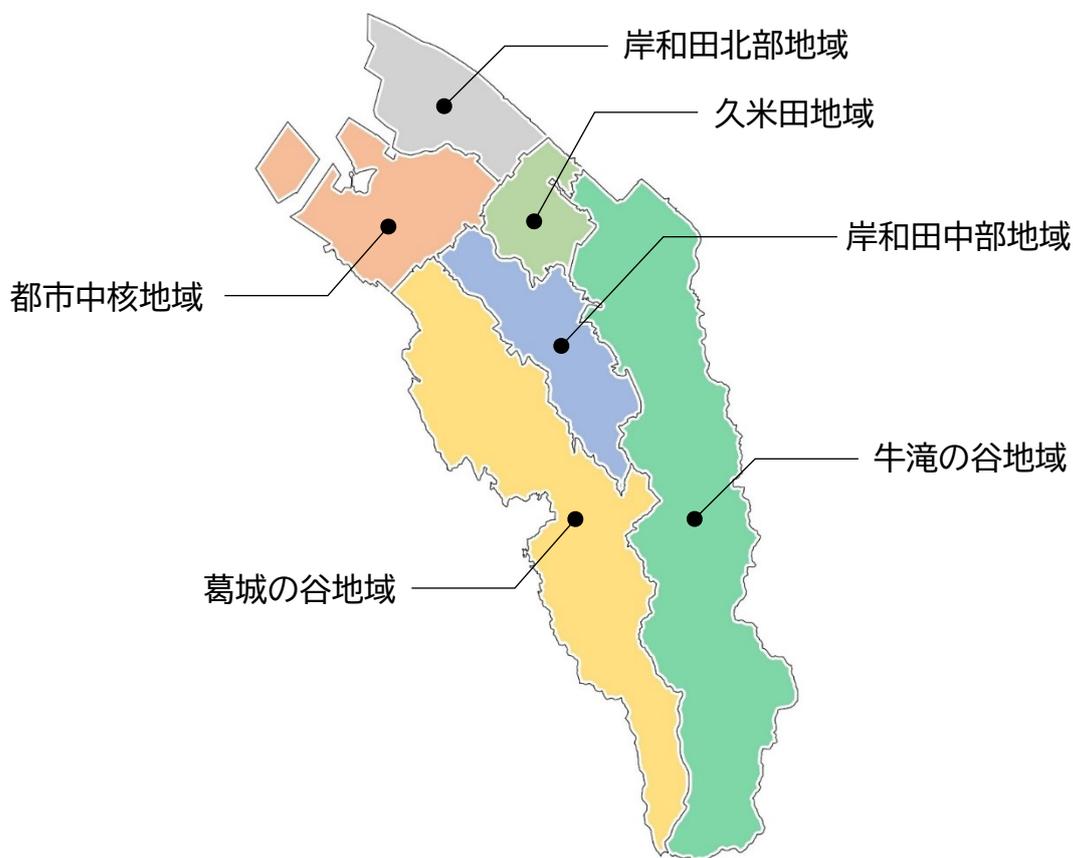
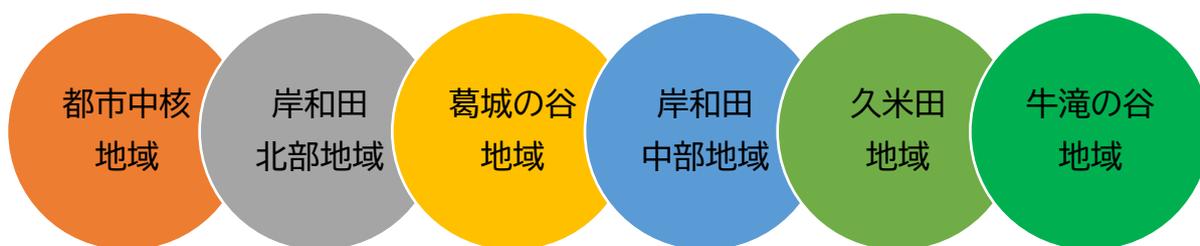
そして、大阪湾と和泉山脈に挟まれ、海から山にかけて細長いという地理的な特性から、地形的に臨海部（おおむね海岸線～大阪臨海線沿道）、平地部（おおむね大阪臨海線沿道～大阪和泉泉南線沿道）、丘陵部（おおむね大阪和泉泉南線沿道～阪和自動車道沿道）、山地部（おおむね阪和自動車道沿道～和歌山県境）の4つの地形で構成されています。丘陵部から山地部にかけては豊かな自然が残り、本市の特色の一つとなっています。

また、標高858mの和泉葛城山をはじめとする山地部に連なる起伏の多い山々に源を発する牛滝川、春木川、津田川の3つの河川が市域を縦断していて、これらの河川が流れる谷筋によって3つの谷が形づくられています。



② 生活圏について

これまでの地域の成長の過程や風土・環境などから、本市は特色のある「6つの地域」に分けることができ、それぞれを一つのまちとして捉え、商業・教育・文化などの環境が整い、日常生活が営める最も大きなコミュニティ単位として設定しています。



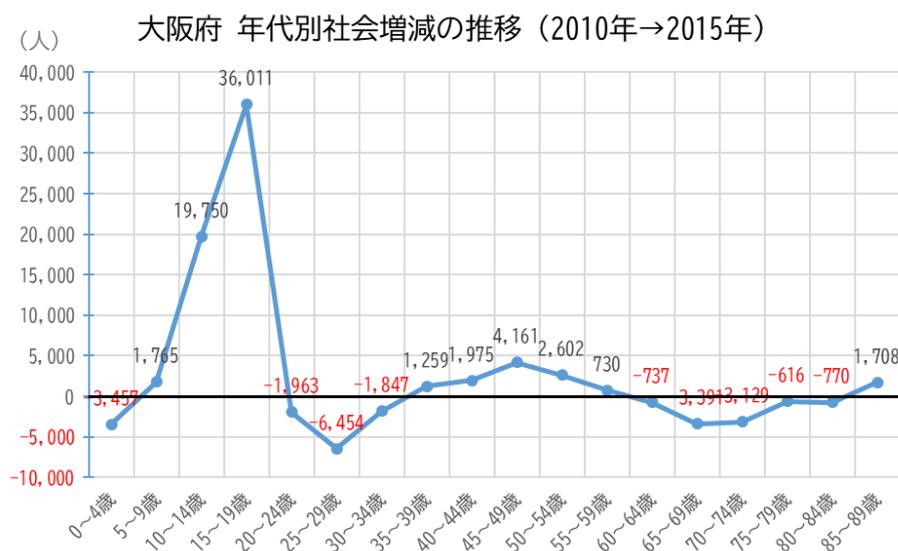
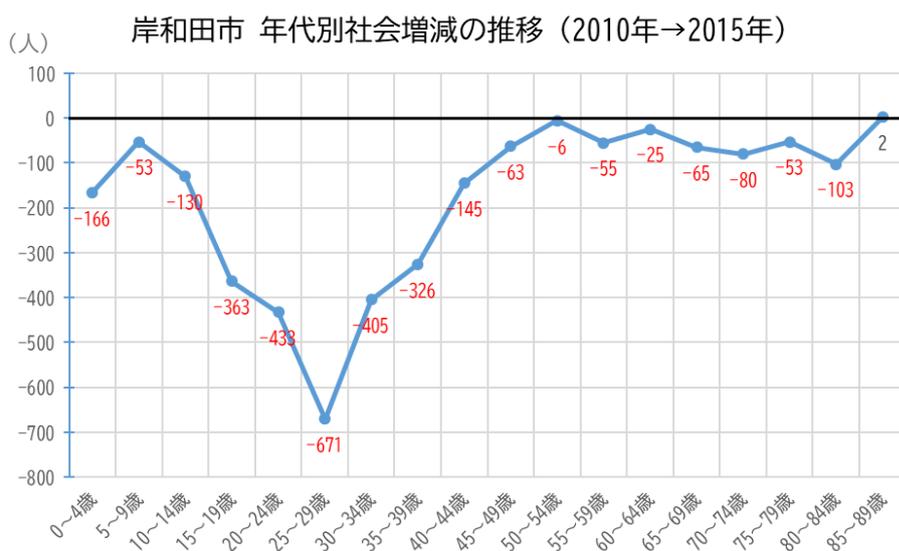
(4) 人口の動向からみた特性

本市の人口動態をみると、近年は社会減（転出数が転入数を上回っている状態）が続いており、大阪府全体と比較すると、30歳前後の子育て世代の転出傾向が顕著となっています。

一方、本市が岸和田市人口ビジョンの策定時に実施したアンケート調査では、転出者の転出理由として「通勤通学」「子育て環境」「治安」「教育」「住宅条件」の順に多く挙げられています。

また、2020（令和2）年度に実施した市民アンケート調査においても、「年代別にみた住みよさ」に対する評価では、30代で住みにくいと感じている人が2割と、他年代に比べて多い傾向にあります。

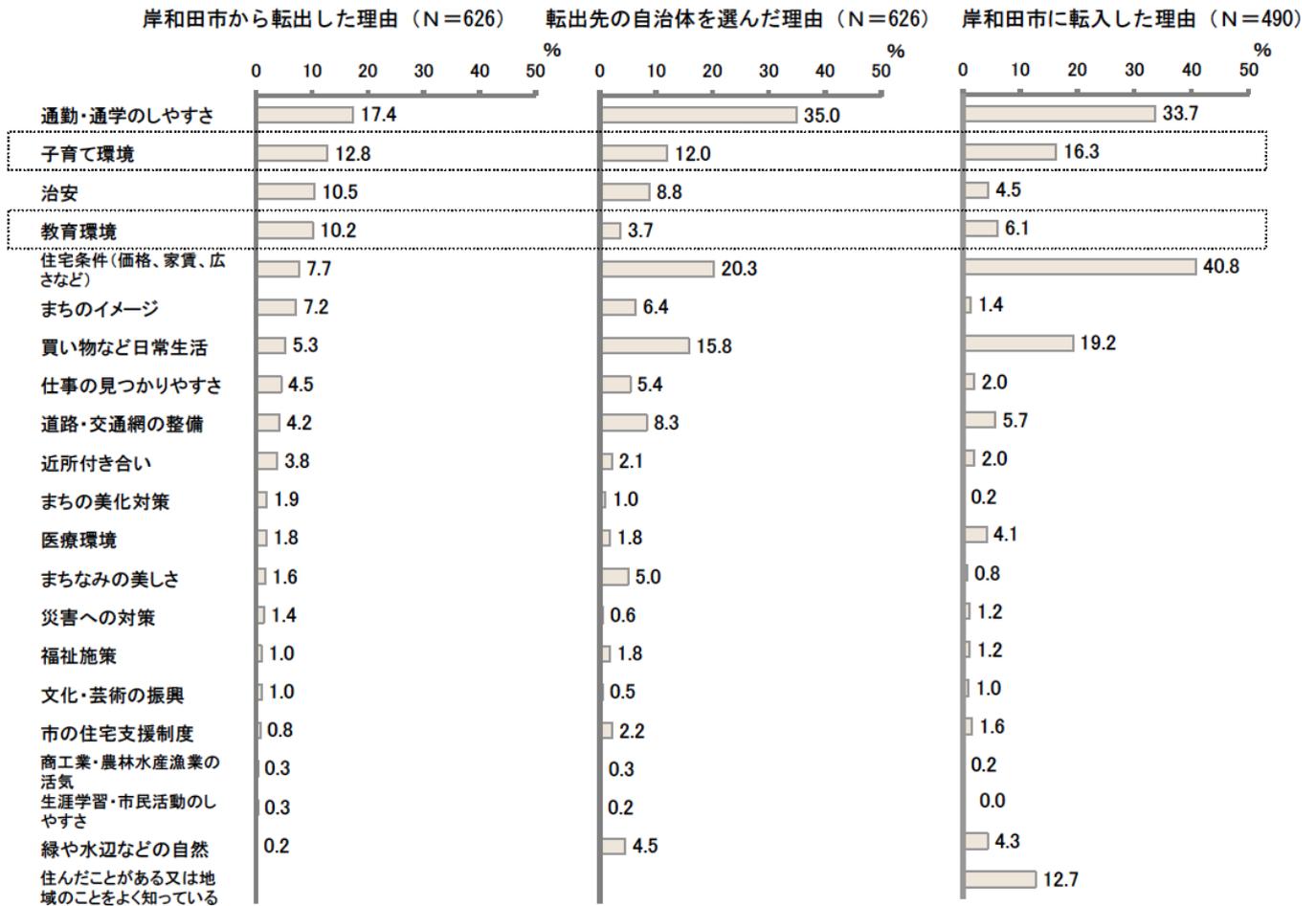
これらのことから、今後の人口減少に歯止めをかけるためには、これら子育て世代を中心とした人々に対する働きかけや対策が重要になると考えられます。



※年齢は2010年における
年齢を記載

【出典】総務省「国勢調査」

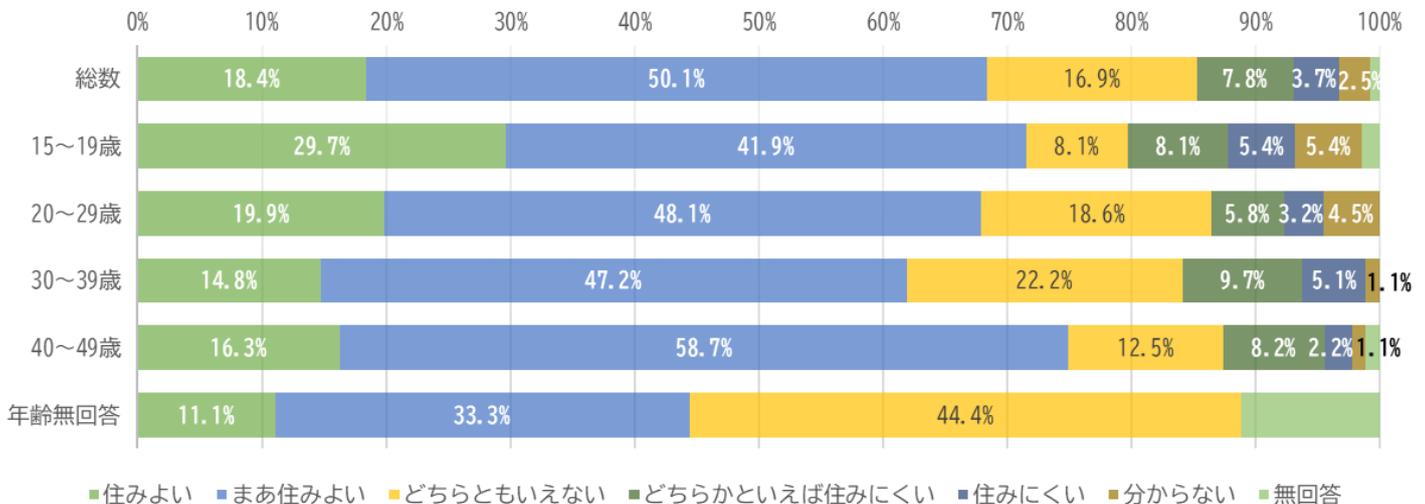
<岸和田市から転出した理由>



転出者アンケートには「住んだことがある又は地域のことをよく知っている」の設問をしていない

【出典】岸和田市「岸和田市人口ビジョン」

<年代別の住みよさに対する評価（市民アンケート（若者・子育て世代））>



【出典】岸和田市「次期総合計画策定に係る市民アンケート（若者・子育て世代）調査結果報告書」

2 社会状況の変化

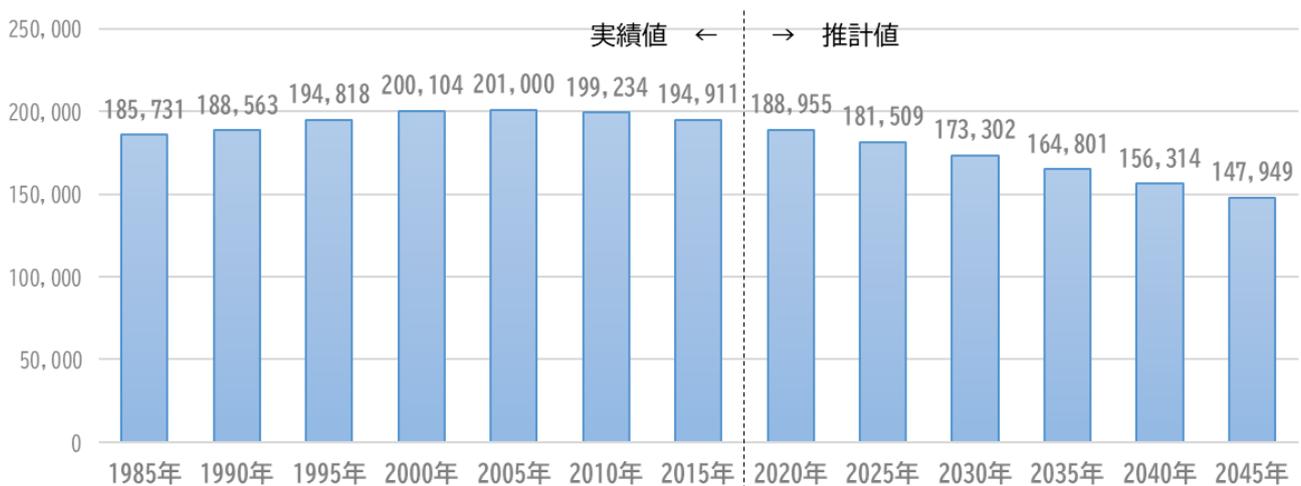
(1) 人口減少や超高齢社会への対応

我が国では、少子高齢化が急速に進展した結果、2008（平成20）年をピークに総人口が減少に転じており、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、2053（令和35）年には日本の総人口は1億人を下回ることが予測されています。

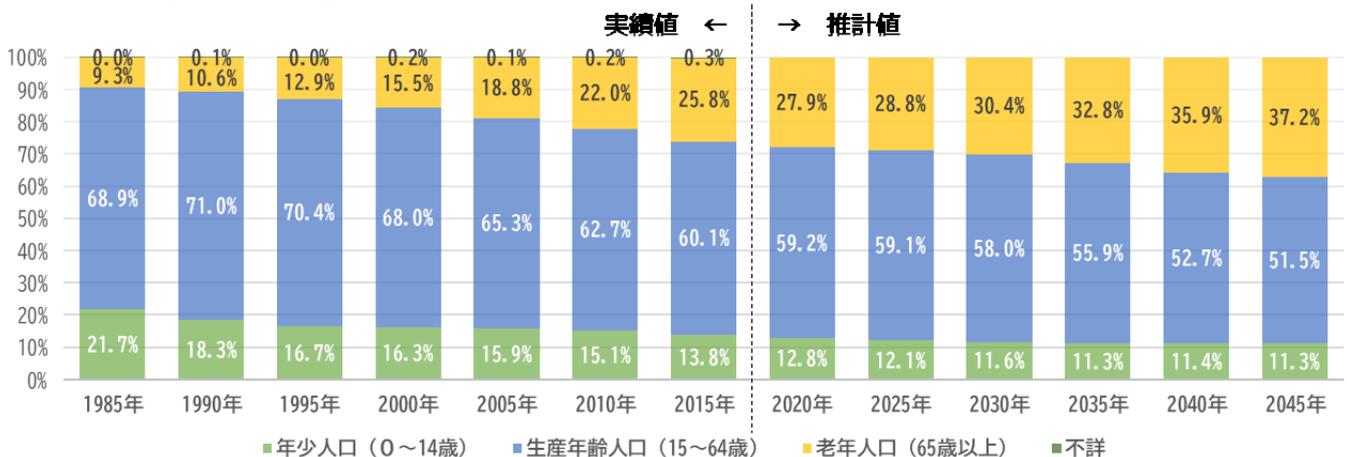
本市においても、2005（平成17）年の20万1,000人をピークにそれ以降人口減少が続き、このまま推移すると2030（令和12）年には17万3,002人、2040（令和22）年には15万人台まで減少すると見込まれています。

このような中、これまでのような人口増加を前提とした制度や運用では成り立たなくなり、人口減少時代にあった「選択と集中」やダウンサイジングのほか、量よりも質が満たされるまちづくりが求められています。

<岸和田市の総人口の推移と将来推計人口>



<岸和田市の年代別人口の推移と将来推計>



【資料】岸和田市「岸和田市人口ビジョン」に基づき作成

(2) 持続可能性や多様性（SDGs）への対応

SDGs（エスディーゼイズ、Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標）は、気候変動、自然災害、生物多様性、紛争、格差の是正などの国内外の課題の解決に向けて掲げられた国際目標（17の目標と169のターゲットで構成）で、今後誰一人取り残さない持続可能でよりよい社会の実現をめざすものです。

2030（令和12）年までの目標達成に向けて、世界の全ての国・地域の政府だけでなく、更には地方自治体や民間企業等もその達成に向けて取り組むこととされています。

SDGsの理念や方向性などについては、基本計画の基本方針等と共通するものであり、本市における総合計画の推進についても、人々の多様性を尊重するとともに、行政だけでなく地域全体の持続可能性を意識したまちづくりが求められています。

<SDGsにおける17の目標>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【出典】国際連合

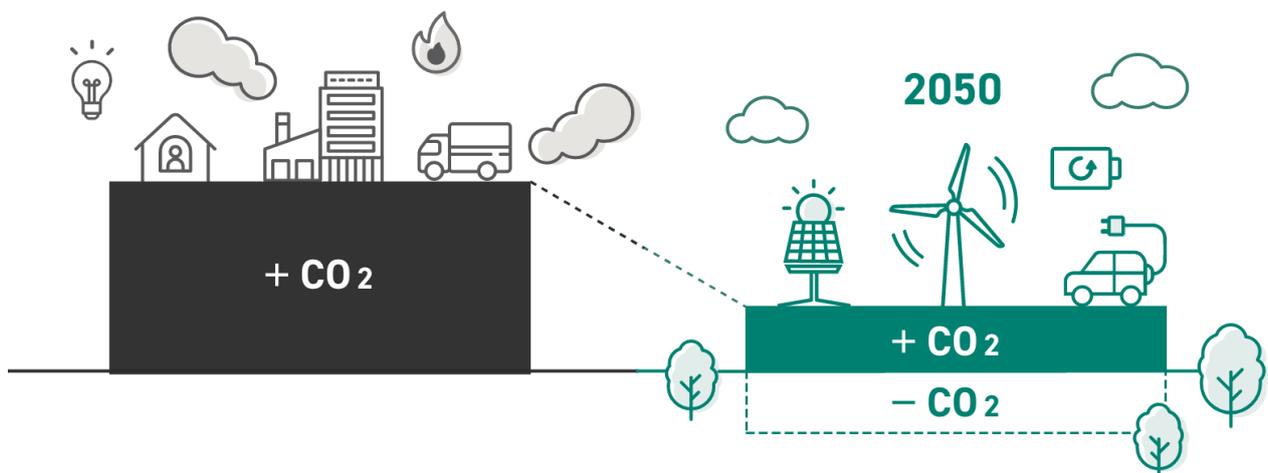
(3) 地球環境問題への対応

化石燃料の大量消費等により、近年、二酸化炭素などの温室効果ガスは増加傾向にあります。温室効果ガスの増加による地球温暖化の影響は、年々顕在化し、洪水や干ばつなどの異常気象が引き起こされるとされています。

2020（令和2）年10月、国が2050（令和32）年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにし、カーボンニュートラルや脱炭素社会の実現をめざすことを宣言するなど、国をはじめ様々な主体により、脱炭素社会や循環型社会への移行など、地球環境に配慮した経済社会の構築が進められています。

本市においても、社会動向を注視しながら、市民・事業者・行政などが地域におけるそれぞれの役割に基づいて、必要な取組を行うことが求められています。

<カーボンニュートラルのイメージ>



※図中の「+CO₂」は排出量を、「-CO₂」は植林や森林管理などによる吸収量を意味し、カーボンニュートラルはそれらの合計を実質的にゼロにすることをめざすもの

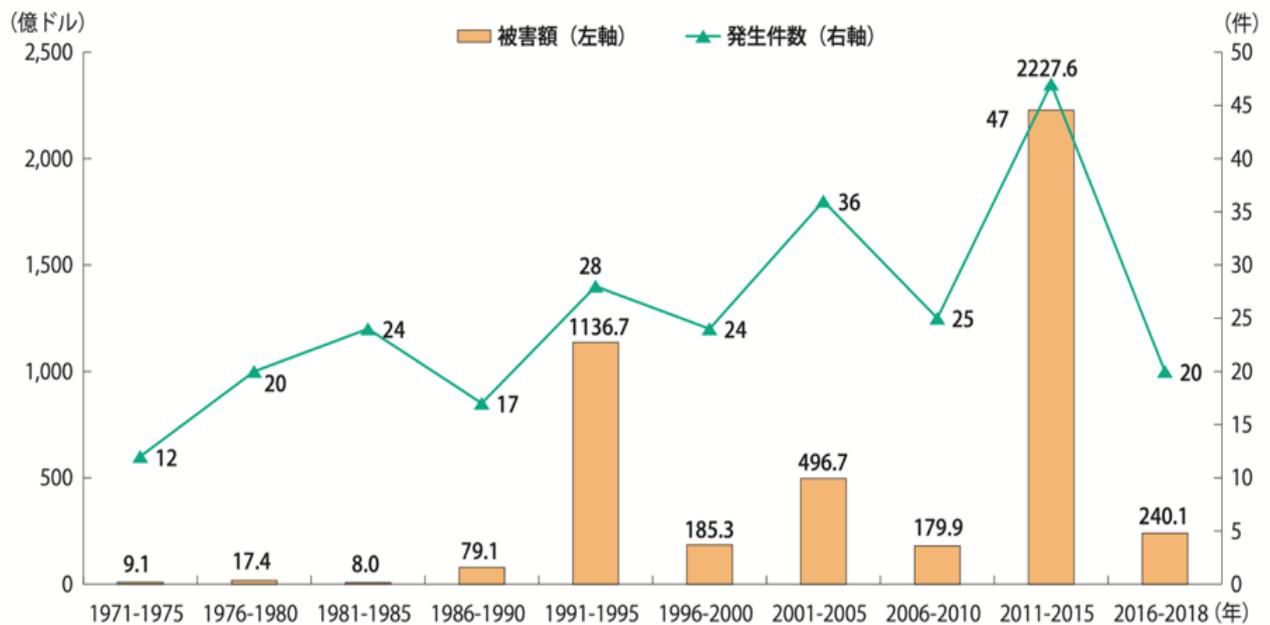
【出典】環境省「脱炭素ポータル」

(4) 危機への備え（安全・安心の確保）

地震や台風、豪雨などの自然災害が全国各地で多発し、その脅威は本市も例外ではありません。近年はそれら自然災害が激甚化し、被害防止の設備などハード面だけではなく、地域で助け合える仕組みなどソフト面の充実が求められています。

その他、自然災害だけではなく、新型コロナウイルス感染症による危機が発生したように、今後はこれまでにない新たな危機への強靭性を高めていくことが求められています。

<我が国の自然災害発生件数及び被害額の推移>



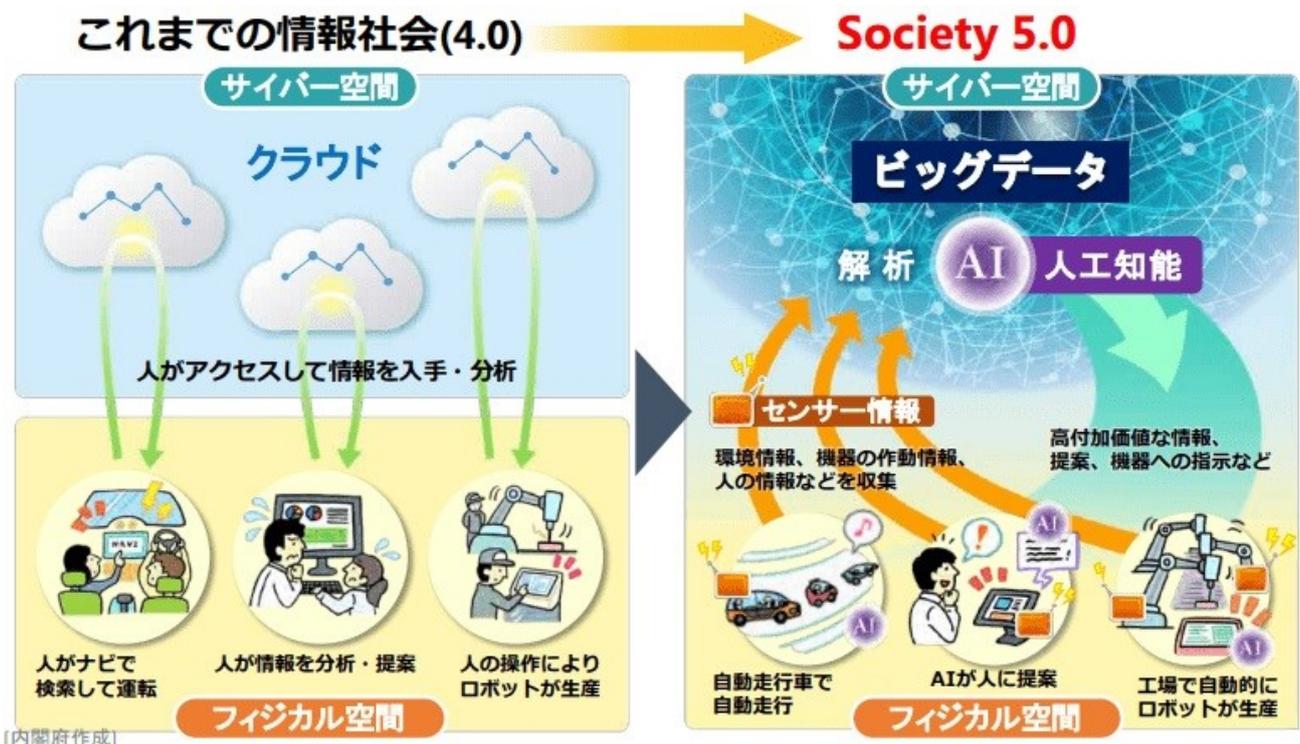
【出典】中小企業庁「中小企業白書 2019」

(5) 革新的技術への対応と活用

近年、AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット化）技術の社会実装が進んでいるように、情報技術の革新は日々めまぐるしく進展しています。こうした科学技術イノベーションが先導する新たな社会を「Society5.0」といい、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続くような変革として、サイバー空間とフィジカル空間（現実社会）が高度に融合した「超スマート社会」の実現が期待されています。

本市においても、市民生活の利便性の向上や、人口減少に伴うマンパワー不足を補うため、それら技術を効果的に活用することが必要です。また、新型コロナウイルス感染症により、新しい生活様式（ニューノーマル）の中での活動が求められている中、今後の社会変容を想定しながらまちづくりを進める際にも、革新的技術の活用が重要になっています。

<Society 5.0の仕組み>



【出典】内閣府

(6) 財政状況への新たな対応

本市では、財政基盤の脆弱性や社会変化に対応した施策への転換の遅れから、これまで繰り返し危機的な財政状況に瀕してきました。

そこで、直面する収支不足を確実に解消するとともに、将来にわたって持続可能な市政運営を実現するため、2019（平成31）年から行財政再建プランを策定し、行財政の構造改革に積極的に取り組むことで、一定の効果を上げてきました。

今後も、広域的な連携による行政の効率化など、引き続き行財政の構造改革に取り組むこと、そして、新たな課題に対して迅速かつ柔軟に対応できる組織の運営が求められています。

3 将来像（めざすまちの姿）

個性きらめき 魅力あふれる ホッとなまち 岸和田

人口減少・超高齢化時代、持続可能性や多様性への対応、地球環境問題への対応、危機への備え、技術革新への対応と活用、財政状況への新たな対応など、社会経済状況は大きく変化しています。

私たちには、これらの直面する課題に果敢に挑戦し、魅力ある岸和田を次の世代へ確実に引き継ぐ使命と責務があります。

私たちのまち岸和田は、先人たちの英知と努力により、泉南地域の経済・文化・行政の中心的都市として着実な成長を続け、多様性をもった調和型都市へと発展してきました。

また、海から山までの豊かな自然と農業・漁業、古くから人々が行き交った歴史から蓄積された文化資源、そして岸和田への愛着心やプライドを持った人情味ある市民と地域のつながりといった、個性にあふれた地域資源と人に恵まれています。

先人たちから受け継いだ都市環境や知恵、豊かな地域資源と人の魅力を最大限に活かしたまちをめざし、「個性きらめき 魅力あふれる ホッとなまち 岸和田」を将来像とします。

<将来像に込めた思い>

個性
きらめき

人情味ある市民が多く、
岸和田への愛着心や
プライドが活かされている

海から山までの豊かな自然と
古くからの歴史・文化、農業・漁業など、
魅力ある資源が活かされている

魅力
あふれる

ホッとな
まち

人にやさしく、いざというときにつながれる
熱い心や、注目される熱い取組や場所があり
(ホット)、

住んでいても訪れても安心 (ほっと) できる
場所となっている

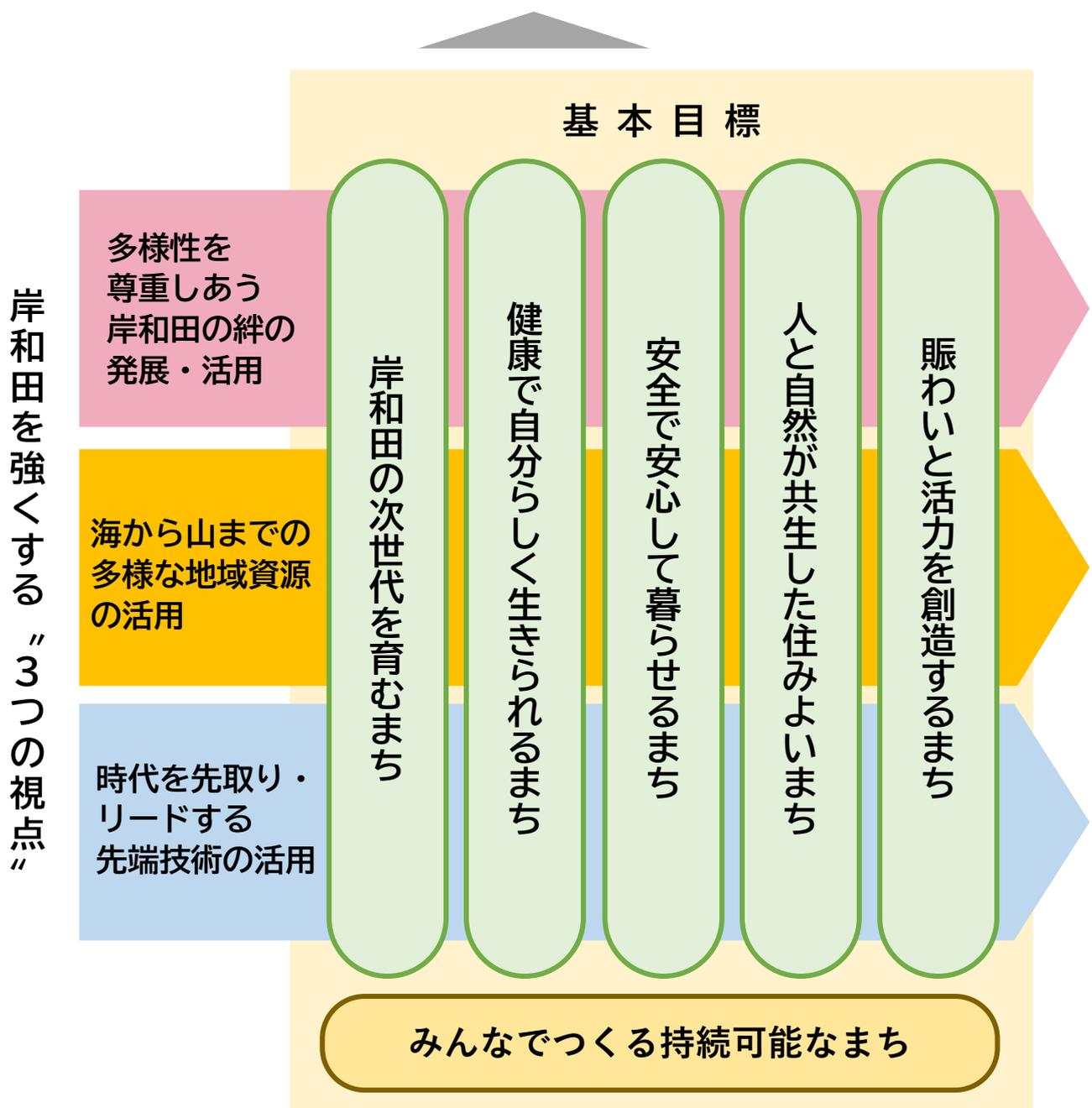
4 基本目標と“3つの視点”

将来像の実現に向けて、6つの基本目標を設定します。

また、すべての分野や取組において共通して意識・活用すべき内容を定めた「岸和田を強くする“3つの視点”」を設定します。

将来像

個性きらめき 魅力あふれる ホットなまち 岸和田



<岸和田を強くする“3つの視点”の設定の背景>

以下の“3つの視点”は、岸和田の特色ある「人や地域」や「物」、新しい「技術」をこれからのまちづくりに積極的に活かしていくため、その方向性を設定しています。これらの活用により、岸和田を強くすることをめざします。

なお、ここでの「岸和田を強くする」とは、**まちの価値をみんなで高めあい、その価値が市内外に広がっていること**を意味するものとし、最終的には将来像の実現につながるものとなります。

多様性を尊重しあう岸和田の絆の発展・活用

岸和田には、だんじり祭などを通じてこれまで築き上げてきた絆や、地域における人と人とのつながりが培われています。それらを発展させ、すべての人が互いを認め合い、新住民や若い世代、事業者などが参加できる新しいコミュニティのあり方を実現していきます。

海から山までの多様な地域資源の活用

岸和田には、海から山までの豊かな自然や、古くからの歴史・文化、農業・漁業など、多種多様な地域資源があります。それらを相互につなげて新しい価値を生み出すなど、これまで以上に活用し、まちづくりに最大限有効活用していきます。

時代を先取り・リードする先端技術の活用

先端技術の発展は日々めまぐるしく進んでいます。ICT技術をはじめ先端技術を様々な分野において積極的に活用し、時代を先取りするとともに市民の生活の利便性の向上や社会変化への柔軟な対応を図り、近隣地域全体をリードするまちをめざします。

<基本目標・個別目標・“3つの視点”の展開イメージ>

基本目標	基本目標のイメージ	個別目標
岸和田の次世代を育むまち	住みたい・子育てしたいと思える環境が整い、みんなが活躍できるまち	<ul style="list-style-type: none"> (1)安心して子どもを産み、育てられている (2)働きながら子育てができています (3)子どもの健康と安全が保たれている (4)子どもの個性や能力が豊かに育まれている (5)生涯にわたる能力づくりが進められ、活かされている (6)誰もが社会参加し、活躍できる場が作られている (7)郷土への愛着が増している
健康で自分らしく生きられるまち	多様性が尊重され、高齢者や障害者をはじめ誰もが健康で安心して生活できるまち	<ul style="list-style-type: none"> (1)健康意識の向上とともに、介護予防が進められ、心身の健康が維持・増進している (2)医療サービスを受ける環境が整うとともに、緊急時にも医療が受けられる状態になっている (3)多様な価値観が尊重され、他者への理解が促進し、安心して生活できる環境が整っている (4)地域で支え合え、助け合える関係が築けている (5)介護や医療保険、障害者支援などの福祉サービスなど、誰もが必要な支援を受け安心して生活している
安全で安心して暮らせるまち	日常に不安がなく、地域で安心して暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> (1)平和で、事故や犯罪などに巻き込まれない生活が送られている (2)災害などの非常時への準備が進められ、強靱な環境になっている
人と自然が共生した住みよいまち	豊かな自然や生物多様性の保全と、まちの美化の促進や環境に配慮されたまち	<ul style="list-style-type: none"> (1)良好な生活環境とともに、まちが美しくなっている (2)人が緑と触れ合っている (3)次世代に引き継げる地球環境になっている
賑わいと活力を創造するまち	地域資源（人・モノ・取組など）を活かした交流促進と産業発展や、生活を支えるさまざまな機能の拠点への誘導とアクセス性の向上、広域的連携による賑わいが創出されたまち	<ul style="list-style-type: none"> (1)活発な経済活動が行われている (2)観光資源が活かされている (3)岸和田の魅力が伝わっている (4)賑わいや活力の創造を支える基盤が整っている
みんなでつくる持続可能なまち	誰もが地域づくりに参加しやすい環境の確保や、広域的連携なども活用した持続可能で健全な行政運営が確保されたまち	<ul style="list-style-type: none"> (1)みんなが主役の協働・連携したまちづくりが行われている (2)持続可能で信頼される行政になっている

岸和田を強くする“3つの視点”の展開イメージ

多様性を尊重しあう 岸和田の絆の発展・活用	海から山までの 多様な地域資源の活用	時代を先取り・リードする 先端技術の活用
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 高齢者をはじめ地域のつながりを活かした子育て支援の実施 ◆ 高齢者の社会参加の推進や生きがいの創出 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自然環境や歴史文化などの教育への取込み・活用 ◆ 事業者と子どもの交流による未来づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学校など教育分野における積極的なICT技術の活用 ◆ ICT技術を活用するためのリカレント教育の推進
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域の関係や助け合いによる孤立・孤独の防止 ◆ 障害者、外国人、性的少数者など、すべての人が受け入れられるまちづくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 公園などの地域資源を活かした健康づくりの推進 ◆ 充実した医療機関等を活かした適切な地域医療体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 健康づくりや福祉分野における積極的なICT技術の活用
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域の助け合いによる事故や犯罪の防止 ◆ 災害時など、いざという時に向けた地域のつながりの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 災害時などの地域間（海側・山側）連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 安全・防災分野への積極的な先端技術の活用
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 子どもと自然活動団体の交流による生物多様性など自然学習機会の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 竹などの資源を活用したまちづくりと環境保全の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 先端技術を活用した効率的な再生可能エネルギーの普及促進
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 住民と事業者の交流による理解促進と新たな価値の創出 ◆ 豊かな地域のつながりを活かした魅力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 資源の磨き上げによる稼ぐ力の向上 ◆ 観光資源の連携によるツーリズム促進 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ IT企業と地元事業者の連携創出 ◆ 観光分野への積極的な先端技術の活用 ◆ 地域にあったスマート農業の推進
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 誰もが地域づくりに参加できる環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域資源を活かしたそれぞれの地域づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ICT技術の活用による行政手続きの利便性向上

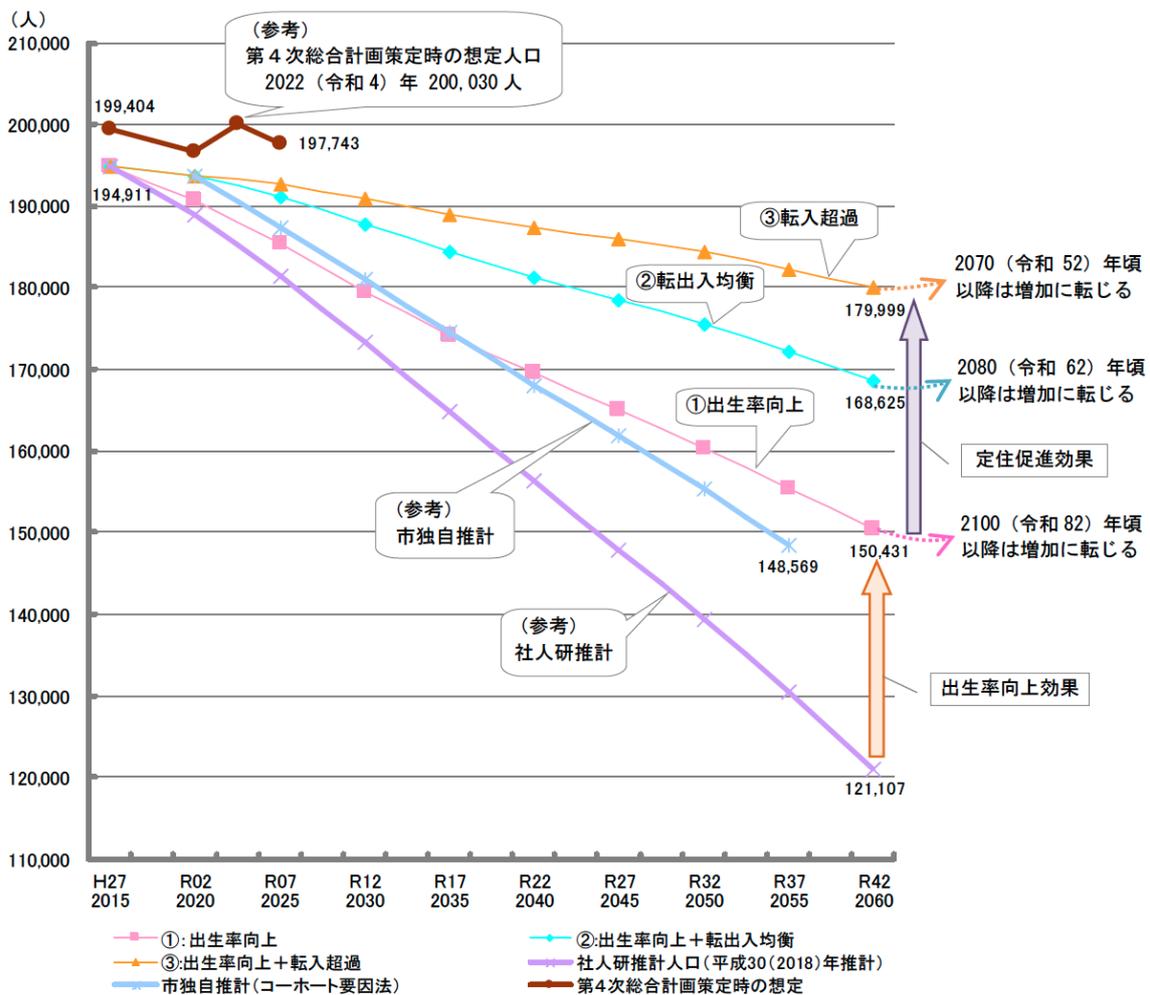
5 将来人口の方向性と都市構造

(1) 将来人口の方向性

本計画の最終年度である2034（令和16）年の推計値で約166,000人と、今後、本市においても厳しい人口減少が予測される中、将来にわたってまちの活力や生活利便性を維持・確保する必要があります。

そこで、子育て環境や住環境の充実など総合計画に定める施策を実施することにより、子育て世代の転出入の均衡を図ることで、人口減少のスピードを緩やかにすることをめざします。

<将来推計人口>



【出典】岸和田市「岸和田市人口ビジョン」

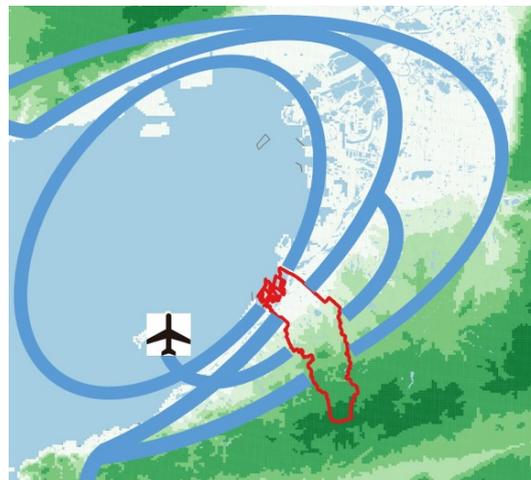
(2) めざす都市構造

将来のまちの活力や、市民の生活利便性を維持していくためには、人・物・情報の流れを活発にし、さまざまな交流と活動の活性化を推進することが必要です。

そのためには、人・物・情報の流れを支える都市基盤や環境の整備、また、システム、人的つながりといったソフト面の充実を、周辺都市やより広域的な地域間での連携を強化していくことが重要です。

本計画では、市内の各地域間はもちろんのこと、周辺都市、関西圏を含めた広域的な都市間連携を強化し、さまざまな交流と活動の活性化を支える「広域連携型都市構造」の実現をめざします。

<広域連携型都市構造 概念図>



地域連携

地形や水系に沿って形成された自然・文化・産業など本市の多様な資源を有機的につなぎ・活かすため、海から山までの連携を推進

泉州地域広域連携

関西国際空港をはじめとする泉州地域の資源やストックをつなぎ・活かすため、近隣市町とさまざまな場面で広域連携を推進

大阪・関西圏広域連携

大阪・関西圏の魅力を高め、岸和田市の活性化につなげるため、広域ネットワークを活かして、府内及び近隣府県との広域連携を推進

① 土地利用の基本方針

土地は、まちの限られた資源であり、現在及び将来にわたって、市民の生活、産業、労働その他の諸活動の共通の基盤となるもので、その利用のあり方は、市の発展や市民の生活と密接に結びついています。

このため、社会情勢の変化や本市の特性を踏まえつつ、まちづくりの基本理念に掲げる「常に安心していつまでも住み続けることができる個性豊かな持続性のある地域社会」の実現をめざし、計画的な土地利用を進めます。

方針 1 山地・農地・市街地のバランスを保つ

山地・農地・市街地のバランスは、おおむね現状を保ち、環境との共生を重視した土地利用を推進

方針 2 地域資源・コミュニティのまともりに配慮

景観、歴史、文化など地域の資源や個性を大切にするとともに、コミュニティのまともりに配慮した土地利用形成を推進

方針 3 自然的条件に留意し災害に対応

地形、地質、水系などの土地のもつ自然的条件に留意した土地利用を行い、災害に強いまちづくりを推進

方針 4 市街地の再編・整備による産業振興と居住環境の調和

都市活力を再生する計画的な市街地の再編と整備に努め、産業振興と居住環境が調和した土地利用形成を推進

方針 5 持続可能な交通ネットワークと都市的機能を備えた拠点形成

道路、鉄道、港湾など広域的輸送手段と連携し、効果的で持続可能な交通ネットワーク形成と生活・社会経済活動を支える都市的機能を備えた拠点形成を推進

② 区域別の土地利用方針

地形によって特徴づけられた、本市の4つの区域ごとの土地利用方針を設定します。

臨海区域

おおむね海岸線
～大阪臨海線

- ・臨海道路、港湾など広域的な輸送手段を活かした工業・流通・港湾業務及び供給処理業務機能を担う地域
- ・港緑地区周辺は、都市区域と連携した集客・文化・生活利便施設等の集積

都市区域

おおむね大阪臨海線
～泉州山手線

- ・住宅・商業・工業などの用途を計画的に配置
- ・各鉄道駅周辺及び幹線道路沿道は、商業・流通・業務機能を担う地域
- ・住宅地域は、まちなみや歴史・自然資源など地域特性と調和した景観形成を図るなど、良好な住環境の保全・形成
- ・市街化調整区域内の農地や都市農地は、農地が備えもつ機能を積極的に評価し、保全・活用
- ・泉州山手線の延伸に応じて、交通結節点を中心に地域特性を活かした広域交流拠点の形成と産業創出

田園区域

おおむね泉州山手線
～阪和自動車道

- ・農地が備え持つ機能を積極的に評価し、農業振興機能を担う地域
- ・丘陵地区に地域資源を活かした地域拠点の形成と産業創出
- ・幹線道路沿道は、地域経済の活性化を目的とした産業の立地については周辺土地利用との調和と環境保全を図りつつ、適切に誘導

山間区域

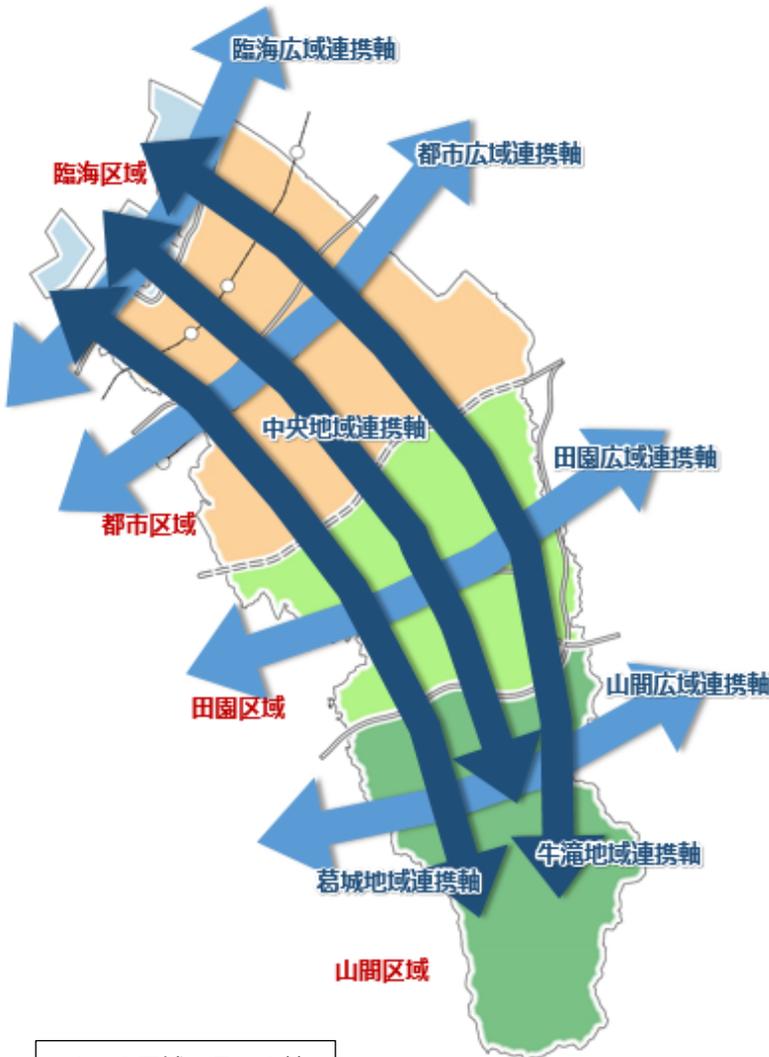
おおむね阪和自動車道
～府県境

- ・森林が備えもつ機能を積極的に評価し、自然環境・景観の保全

③ 軸の設定

泉州地域や大阪・関西圏を結ぶ「広域連携軸」と帯状に形成された4つの区域を結び、人・物・情報が流れ、様々な交流と活動の活性化を図るために市域内を結ぶ「地域連携軸」を設定します。

地域連携軸により海と山をつなぎ、地形や水系に沿って形成された自然・文化を有機的につなぐとともに、地域連携軸と格子状をなす広域連携軸により、市域内及び市域を越えた交流・活動の発展を推進します。



<軸の機能と主な路線>

広域連携軸

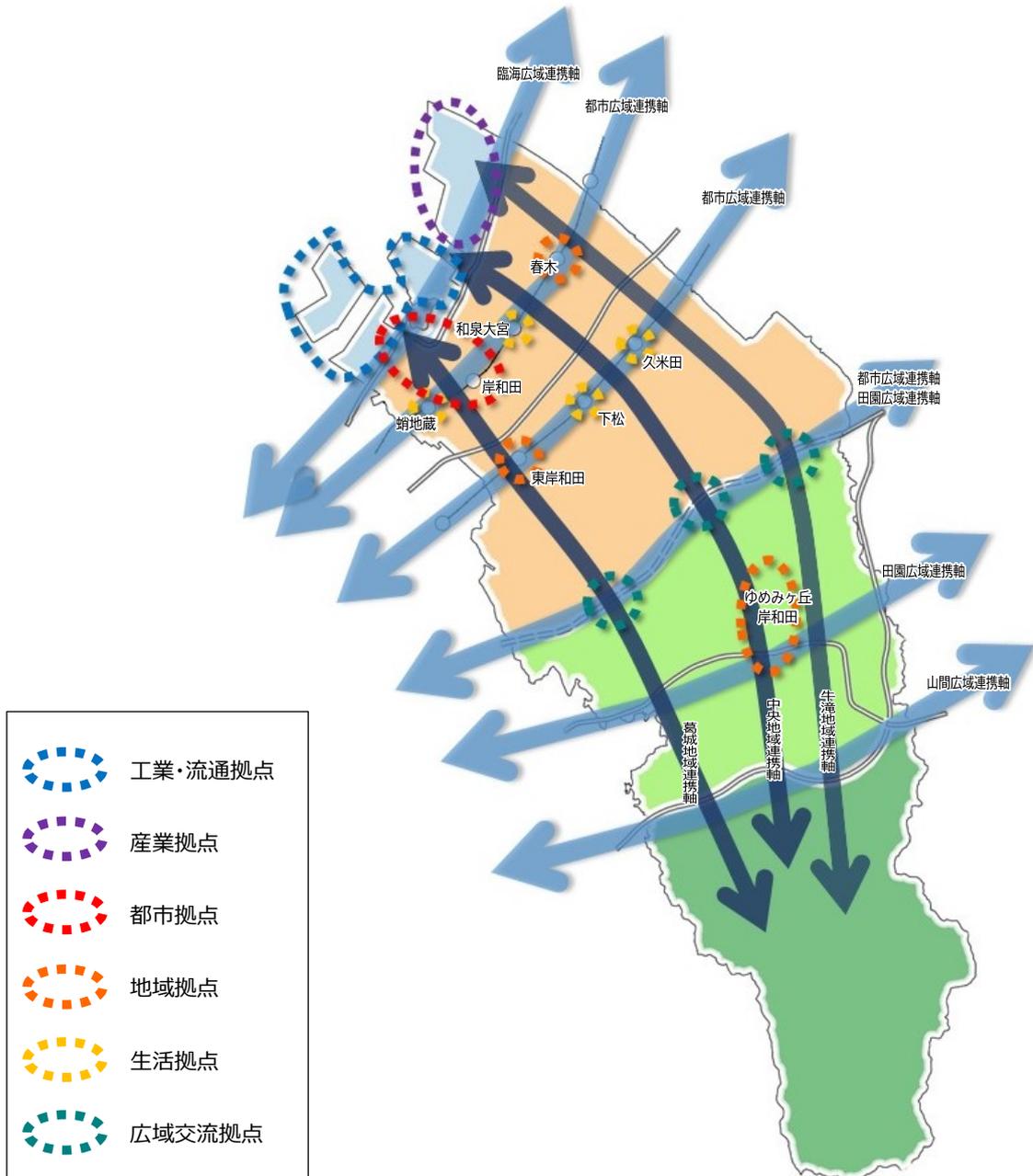
- ・ 臨海広域連携軸
(臨海区域で市内外を結ぶ)
阪神高速4号湾岸線、府道大阪臨海線
- ・ 都市広域連携軸
(都市区域で市内外を結ぶ)
府道堺阪南線、南海本線、国道26号
JR 阪和線、府道大阪和泉泉南線、
都) 泉州山手線
- ・ 田園広域連携軸
(田園区域で市内外を結ぶ)
都) 泉州山手線、国道170号
- ・ 山間広域連携軸
(山間区域で市内外を結ぶ)
阪和自動車道

地域連携軸

- | | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 葛城地域連携軸
(葛城の谷沿いに市域を結ぶ)
府道岸和田港塔原線
津田川水系 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中央地域連携軸
(市の中央部に市域を結ぶ)
府道春木岸和田線
春木川水系 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 牛滝地域連携軸
(牛滝の谷沿いに市域を結ぶ)
府道牛滝山貝塚線
牛滝川水系 |
|--|--|---|

④ 拠点の設定

人・物が循環する広域連携軸との交通結節点周辺に、地域特性を活かした拠点形成を、さまざまな分野や主体の連携により推進します。



工業・流通拠点

鉄工団地、地蔵浜地区（阪南1区）、岸之浦町（阪南2区）などの臨海部の埋立地は、工業・流通拠点として、広域連携軸近辺及び海辺の立地条件を活かし、工業・流通機能の集積を促進します。

産業拠点

木材港地区は、広域連携軸や市街地との近接性を活かし、工業・流通機能の集積に加えて、先端産業・新産業の創出をめざします。

都市拠点

南海本線岸和田駅周辺の商店街、岸和田城周辺の観光資源、港緑地区の文化施設や商業施設、また地蔵浜町の漁業、市立公民館をはじめとするコミュニティ拠点などさまざまな資源や機能が相互に活性化しあい、市内外から人が集い、憩い、交流する都市拠点の形成を促進します。

地域拠点

南海本線春木駅周辺、JR 阪和線東岸和田駅周辺は、商業・居住・公共公益サービス機能などの多様な機能が集積し、人が集い、交流する地域拠点の形成を促進します。

田園区域に位置するゆめみヶ丘岸和田は、眺望を活かした居住地の形成と地域資源の利活用や農業をはじめとする多様な産業の交流・連携により地域活力の創出をめざします。

生活拠点

南海本線泉大宮駅、蛸地蔵駅、JR 阪和線久米田駅、下松駅の周辺は、商業・医療・サービス業・居住などの都市機能が集積し、安全で利便性の高い生活拠点の形成を促進します。

広域交流拠点

広域連携軸泉州山手線の延伸に応じて、交通結節点を中心に、地域特性を活かした人・物・情報が行き交う広域交流拠点の形成を促進します。

地域コミュニティの拠点である市民センターや地区公民館とも連携して交流の活性化を図るとともに、周辺土地利用との調和と環境保全に配慮しつつ、産業の創出や地域の活性化をめざします。

6 施策体系図



- ◀ (1)安心して子どもを生み、育てられている
- (2)働きながら子育てができている
- (3)子どもの健康と安全が保たれている
- ◀ (4)子どもの個性や能力が豊かに育まれている
- (5)生涯にわたる能力づくりが進められ、活かされている
- (6)誰もが社会参加し、活躍できる場が作られている
- (7)郷土への愛着が増している

- (1)健康意識の向上とともに、介護予防が進められ、心身の健康が維持・増進している
- (2)医療サービスを受ける環境が整うとともに、緊急時にも医療が受けられる状態になっている
- ◀ (3)多様な価値観が尊重され、他者への理解が促進し、安心して生活できる環境が整っている
- (4)地域で支え合え、助け合える関係が築けている
- (5)介護や医療保険、障害者支援などの福祉サービスなど、誰もが必要な支援を受け安心できている

- ◀ (1)平和で、事故や犯罪などに巻き込まれない生活が送れている
- (2)災害などの非常時への準備が進められ、強靱な環境になっている

- ◀ (1)良好な生活環境とともに、まちが美しくなっている
- (2)人が緑と触れ合っている
- (3)次世代に引き継げる地球環境になっている

- ◀ (1)活発な経済活動が行われている
- (2)観光資源が活かされている
- (3)岸和田の魅力が伝わっている
- (4)賑わいや活力の創造を支える基盤が整っている

- ◀ (1)みんなが主役の協働・連携したまちづくりが行われている
- (2)持続可能で信頼される行政になっている

主な取組	内容・役割	構成・対象
市民アンケート調査	<p>将来像などについてアンケート調査を実施しました。</p> <p>アンケート調査は、①全世代向け、②若年・子育て世代向け、そして、コミュニティ活動の中心である③地区市民協議会向けに実施し、それぞれから意見を聴取しました。</p>	<p>全世代、 若年・子育て世代、 地区市民協議会</p>
事業者・団体 ヒアリング	<p>本市の現況・課題に対して、市内で活躍している事業者や市民活動団体等から意見を聴取しました。</p>	<p>市内事業者、 市民活動団体等</p>
パブリックコメント、 地域説明会	<p>基本構想骨子案及び基本構想案についてパブリックコメントを実施し、意見聴取を行います。また、市民に内容を知っていただく機会とするため、地域説明会を開催します。</p>	<p>すべての市民</p>
庁内サポーターの 参加	<p>まちづくり市民懇話会へ参加するとともに、計画の策定全般について事務局とともに検討します。</p>	<p>若手職員等</p>
庁内検討会議	<p>政策決定会議の専門委員会と位置付け、まちづくり市民懇話会やアンケートなどを参考に、事務局が作成した案を基に将来像や基本目標、基本施策、指標、公民の役割分担に関する検討など、基本構想・基本計画の調整を行います。</p>	<p>全部長</p>
政策決定会議	<p>庁内検討会議で作成した基本構想・基本計画を審議し、決定します。</p>	<p>市長、副市長、 教育長</p>

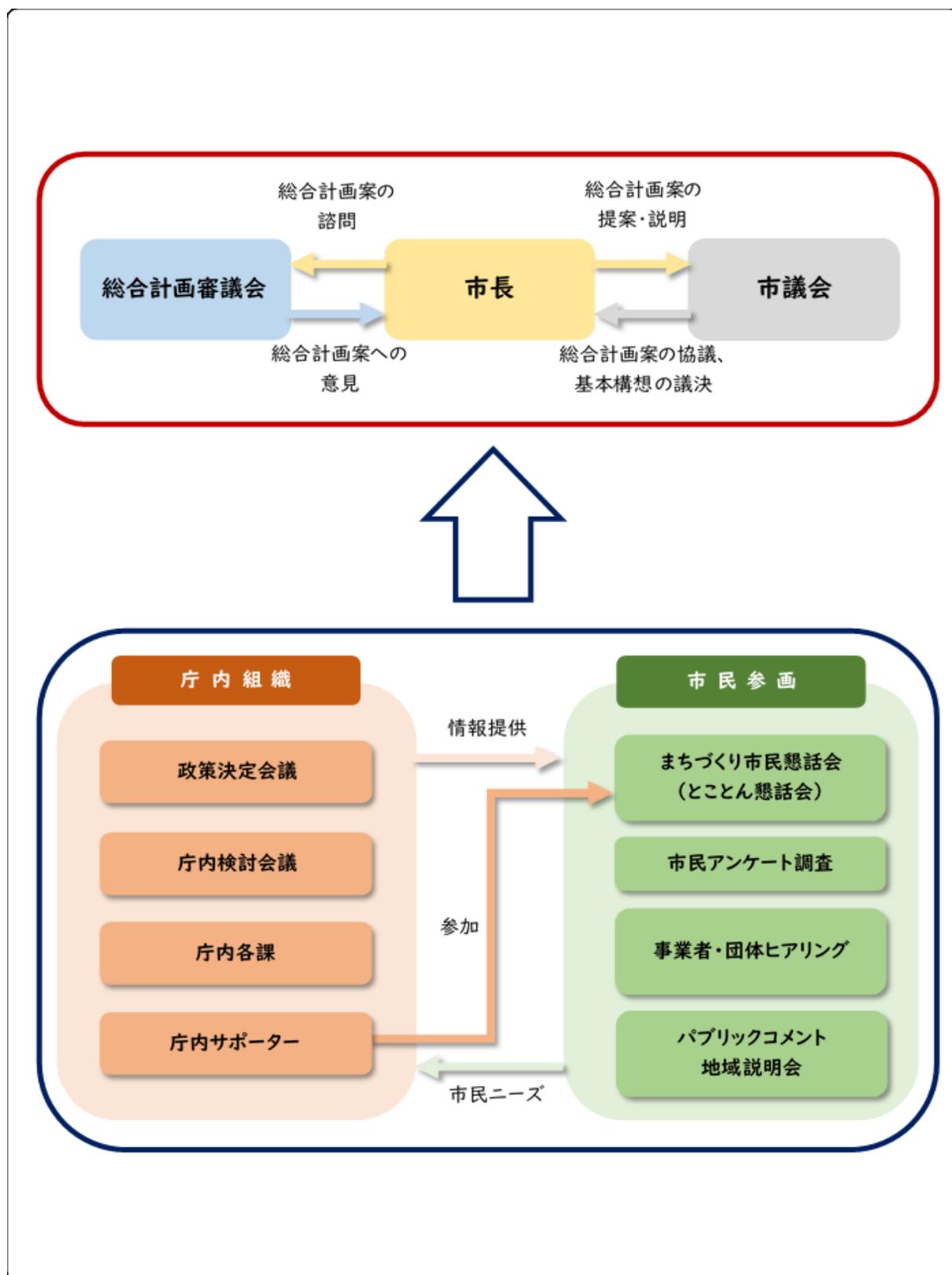
主な取組	内容・役割	構成・対象
総合計画審議会 (附属機関)	政策決定会議で決定された基本構想・基本計画を、附属機関として審議します。	—

<総合計画審議会委員一覧>

氏名	選出区分(所属)
新川 達郎(会長)	学識経験者(同志社大学 名誉教授)
久 隆浩(副会長)	学識経験者(近畿大学 総合社会学部 教授)
窪田 好男	学識経験者(京都府立大学 公共政策学部 教授)
池島 明子	学識経験者(大阪体育大学 体育学部 教授)
藤田 和史	学識経験者(和歌山大学 経済学部 准教授)
新井 イスマイル	学識経験者(奈良先端科学技術大学院大学 准教授)
松阪 道雄	公共的団体等の代表者(地区市民協議会事務局連絡会)
中川 麗子	公共的団体等の代表者(岸和田女性会議)
田口 雅士	公共的団体等の代表者(特定非営利活動法人神於山保全くらぶ)
沖藤 政紀	公共的団体等の代表者(岸和田市社会福祉協議会)
高原 育子	公共的団体等の代表者(岸和田市障害者・児関係団体連絡協議会)
久禮 三子雄	公共的団体等の代表者(岸和田市医師会)
中井 秀樹	公共的団体等の代表者(岸和田商工会議所)
音揃 政啓	公共的団体等の代表者(岸和田市漁業協同組合)
山田 久美	公共的団体等の代表者(いずみの農業協同組合)
武田 吉清	公共的団体等の代表者(岸和田市観光振興協会)
齊藤 憲子	公共的団体等の代表者(岸和田文化事業協会)
鳥居 敬史	公募市民
道下 栄次	公募市民
小関 美喜子	公募市民

(敬称略・順不同)

<策定プロセス イメージ図>



2 策定スケジュール(案)

		2020(令和2)年度												2021(令和3)年度				
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
市民		市民アンケート調査						事業者・団体ヒアリング						まちづくり市民懇話会(とことん懇話会)				
		パブ 8/2~																
行政		庁内検討会議												7/5				
		8/18						2/17						政策決定 7/19				
		総合計画 7/30																
市議会		説明																

2022(令和4)年度																		
9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
[Blue bar spanning from column 9 to 10]																		
リックコメント							[Blue bar spanning from column 4 to 6]											
9/2							[Blue bar spanning from column 5 to 6]											
							地域説明会											
[Blue bar spanning from column 9 to 10]																		
10/28							[Blue bar spanning from column 4 to 6]											
会議							[Blue bar spanning from column 4 to 10]											
[Blue bar spanning from column 10 to 11]							[Blue bar spanning from column 4 to 6]											
審議会							[Blue bar spanning from column 4 to 10]											
[Blue bar spanning from column 10 to 11]							[Blue bar spanning from column 4 to 6]											
[Blue bar spanning from column 9 to 10]																		
議決																		